

むかしむかし 昔々の そお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第15回

鹿児島県の 風土が生んだ遺産



そお鹿児島農協 財部支所石蔵倉庫

J

R 財部駅から南西方向、そお鹿児島農協財部支所の敷地内にある石蔵の倉庫です。昭和

7年に財部産業組合が米の保管倉庫として建設し、平成11年まで、長く政府指定倉庫として活用されてきました。石造平屋建、切妻造、瓦葺で建築面積は319㎡。溶結凝灰岩を用いた頑丈な建造物です。

倉庫内の天井には、太平洋戦争時の航空機を思わせる落書きが残り、現在でも倉庫として利用されています。

大正10年、農産物の価格安定を目的とした米穀法の制定により、個人取引であった農産物を政府指定倉庫で保管・管理するため、各地の農業従事者は組合を設立し、政府の援助を受けて、いたる所に農業倉庫を設立しました。

県内の石造物には、古くから溶結凝灰岩が利用されています。この溶結凝灰岩は火山の噴火による火砕流堆積物が分厚く堆積し、熱

と圧力で変成した、やや軟質で加工が容易な岩です。市内でも、約33万年前の加久藤カルデラ火砕流堆積物、約11万年前の阿多カルデラ火砕流堆積物、約3万年前の始良カルデラ火砕流堆積物がそれぞれ厚く堆積し、溶結凝灰岩の露頭があちこちに見られます。

この石蔵倉庫には始良カルデラ由来の溶結凝灰岩が用いられ、建造から90年近く経った現在でも安定した姿を留めています。

以上の事から「国の歴史的景観に寄与しているもの」と評価され、国登録有形文化財として大切にされています。



石蔵倉庫



【アクセス】

曾於市財部町南俣11358番地2
JAそお鹿児島農業協同組合財部支所敷地内



倉庫内に残る落書き
※現在は見学できません。

また市内に残る石塔・田の神・古墓といった文化財にも溶結凝灰岩が利用されています。南九州の特徴的な地質が生んだ溶結凝灰岩は、生活や文化に大きく関わっています。